

会長推薦の7名全員が受賞

優秀施工者国土交通大臣顕彰式典を開催



建設マスター顕彰式典の会場風景



顕彰式典の開始を待つ受賞者たち

建設現場の第一線で直接作業に従事し、特に優秀な技能・技術を持ち、後進の指導・育成などに多大な貢献をしている建設産業従事者を対象として、国土交通大臣が顕彰する「令和元年度 優秀施工者国土交通大臣顕彰式典」が10月11日、東京・芝公園のメルパルク東京ホールで開催されました。主催者の国土交通省からは、国土交通大臣政務官の佐々木紀（ササキ・ハジメ）氏、土地・建設産業局長の青木 由行（アオキ・ヨシユキ）氏、大臣官房審議官の美濃 芳郎（ミノ・ヨシロウ）氏の幹部職員3名が、審査・選考を実施した優秀施工者国土交通大臣顕彰審査委員会からは、委員9名が臨席されました。

今回、自家発電設備関連からは内発協の今永 隆（イマナガ・タカシ）会長が推薦した、建設マスター顕彰候補者4名、建設ジュニアマスター顕彰候補者3名、計7名の全員が顕彰を受賞しました。

（6・7ページに会長推薦の顕彰受賞者名簿）

顕彰式典は2部構成で、第1部では、平成4年度から実施している優秀施工者国土交通大臣顕彰として、特に卓越した技能・技術を持つおおむね65歳以下の建設技能者を「建設マスター」として国土交通大臣が顕彰しました。初めに、佐々木政務官が、公務のために欠席された国土交通大臣の赤羽 一嘉（アカバ・カズヨシ）氏からの祝辞を代読しました。次いで、佐々木政務官から、優秀施工者顕彰受賞者456名に対し、顕彰状を授与するとともに、記念の徽章（建設マスターバッジ）を贈呈しました。令和元年度の456名を含め、建設マスター顕彰受賞者数は累計1万529名となります。

第2部では、平成27年度から実施している青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰として、優秀な技能・技術を持ち、今後さらなる活躍が期待されるおおむね39歳以下の青年技能者を「建設ジュニアマスター」として土地・建設産業局長が顕彰しました。青木局長から、青年優秀施工者顕彰受賞者105名に対し、顕彰状を授与しました。令和元年度の105名を含め、建設ジュニアマスター顕彰受賞者数は累計530名となります。

同日の顕彰式典では、初めに、主催者の代表による開会あいさつとして赤羽大臣の祝辞を、佐々木政務官が代読しました。

佐々木政務官は、「建設産業は住宅や社会資本の整備、災害対応などの重要な役割を担っております。人の技術・技能に支えられている産業です。建設産業はその役割を果たしていくためには優秀な人材を確保し育成していくとともに、優れた技術・技能を

次世代へ継承していくことが重要です」と述べました。

その上で、「本日は456名の方々が建設マスターとして国土交通大臣顕彰を授与されます。皆様はそれぞれ長年にわたり、ものづくりの現場で第一線において優秀な技術・技能を発揮され、後進の指導・育成にも積極的に取り組んでこられました。まさに、ものづくり、人づくりの名人と称されるにふさわしい方々です」と述べました。

さらに、「本日は建設ジュニアマスターとして105名の方々が土地・建設産業局長賞を授与されます。これまで建設現場において優秀な技術・技能を発揮され、今後さらなるご活躍が期待される方々です。皆様のこれまでのご尽力と、受賞者を支えてこられたご家族の方々に敬意を表しますとともに、心よりお祝いを申し上げます」と述べ、受賞者と家族のこれまでの努力をねぎらいました。

来賓あいさつの後、**建設マスター顕彰状の授与式**が執り行われました。初めに、全国を5地区に分けて、①北海道・東北地区=69名②関東地区=93名③北陸・中部地区=92名④近畿・中国地区=102名⑤四国・九州・沖縄地区=100名の順で、司会者が地区毎に顕彰受賞者の概要を紹介しました。次

いで、司会者の発声に従って地区毎の顕彰受賞者と同伴者の全員が起立し、壇上の佐々木政務官に対し、一礼して着席しました。最後に、司会者の発声に従って全国の顕彰受賞者456名と同伴者の全員が起立し、その中から代表者が登壇し、佐々木政務官から、建設マスター顕彰状を授与されました。

続いて、建設マスターと同じ手順で、**建設ジュニアマスター顕彰状の授与式**が執り行われました。司会者から、地区毎の顕彰受賞者の概要を紹介された後、司会者の発声に従って全国の顕彰受賞者105名と同伴者の全員が起立した中から代表者が登壇し、青木局長から、建設ジュニアマスター顕彰状を授与されました。地区毎の顕彰受賞者数は、①北海道・東北地区=11名②関東地区=34名③北陸・中部地区=16名④近畿・中国地区=22名⑤四国・九州・沖縄地区=22名となっています。

顕彰式典の終了後、同じ会場で、顕彰受賞者のお子さんなどから寄せられた34編の「家族作文」の概要について、司会者が紹介するとともに、その中から数編を選んで朗読しました。

また、「未来を創造する建設業～私たちの主張～」というテーマで、国土交通省と建設産業人材確保・育成推進協議会が募集した「令和元年度 作文コンクー

会長推薦の顕彰受賞者名簿

◆建設マスター顕彰受賞者

▼西口 信行（ニシグチ・ノブユキ）氏。千葉県千葉市美浜区。機械器具設置工。株式会社第一テクノ。東京都品川区。

▼佐藤 禎信（サトウ・サダノブ）氏。東京都江東区。電気工。株式会社辰巳菱機。東京都江東区。

▼原 伸宏（ハラ・ノブヒロ）氏。神奈川県鎌倉市。機械器具設置工。株式会社第一テクノ。東京語品川区。

▼田中 祥智（タナカ・ヨシトモ）氏。兵庫県神戸市西区伊川谷町。電気工。西芝電機株式会社。兵庫県姫路市網干区。

◆建設ジュニアマスター顕彰受賞者

▼北澤 政範（キタザワ・マサノリ）氏。埼玉県行田市。機械器具設置工。株式会社昭栄。埼玉県行田市。

▼吉田 多喜夫（ヨシダ・タキオ）氏。埼玉県行田市。機械器具設置工。株式会社昭栄。埼玉県行田市。

▼渡邊 重之（ワタナベ・シゲユキ）氏。栃木県宇都宮市。機械器具設置工。ヨシダ・テクノ株式会社。栃木県河内郡上三川町。＝欠席＝

ル」の選定結果について、司会者が報告を行いました。初めに、選定委員会委員長で立命館大学客員教授の古阪 秀三（フルサカ・シュウゾウ）氏が、全国から寄せられた応募作品と入賞した7作品について講評を述べました。次いで、司会者が入賞7作品について概要を紹介した後、国土交通大臣賞に輝いた3作品の入賞者本人が登壇し、作文を朗読して披露しました。

令和元年度は、平成20年度に創設された建設業で働く方々を対象とする「社会人の部門」には、全国から479作品の応募があり、国土交通大臣賞には2作品、土地・建設産業局長賞には2作品、計4作品が選ばれました。一方、平成25年度に創設された全国の工業高校生などを対象とする「高校生の部門」には、全国から861作品の応募があり、国土交通大臣賞には1作品、土地・建設産業局長賞には2作品、計3作品が選ばれました。



(上) 佐々木政務官から建設マスター顕彰状を授与される代表者。(下) 青木局長から建設ジュニアマスター顕彰状を授与される代表者。